

# システム開発の流れについて

# システム開発の手法

1. ウォーターフォール型
2. アジャイル型

代表的なものは上記の二つです。

# ウォーターフォール型とは

- **ウォーターフォール型**は、開発プロセスを段階的に進める手法です。
- 各工程を順序立てて完了させ、基本的に後戻りせずに進みます。
- 進行が視覚化しやすく、特に大規模プロジェクトで適しています。

# アジャイル型とは

- **アジャイル開発**は、ウォーターフォール型と異なり、短期間の反復サイクル（スプリント）で開発を進める手法です。
- 変更柔軟に対応できるため、顧客の要望や市場の変化に迅速に適応できます。

# ウォーターフォール型とアジャイル の違い

- **ウォーターフォール型：**
  - 各工程を順番に完了させるが、後戻りが難しい。
  - 大規模・長期のプロジェクトに適している。
- **アジャイル型：**
  - 短いスプリントで進めるため、途中の修正が容易。
  - 小規模・変化の多いプロジェクトに向いている。

# まとめ

- **ウォーターフォール型**と**アジャイル型**には、それぞれの  
特長と適応するプロジェクトがあります。
- プロジェクトの規模や内容に応じて、最適な開発手法を  
選択することが重要です。

# 開発の主なフェーズ

## 1. 要件定義

- 顧客のニーズや要望を詳細に把握し、プロジェクトのゴールを明確化します。

## 2. 仕様書作成

- 要件を具体化して文書化し、システムの仕様を詳細に定義します。

## 3. 基本設計

- システム全体の構造を設計し、各機能の概要を決定します。

# 開発の主なフェーズ（続き）

## 4. DB設計

- データベースの構造を設計し、エンティティやリレーションの定義を行います。

## 5. コーディング

- 要件定義書や仕様書に基づき、プログラムの実装を行います。

## 6. テスト

- 単体テストや結合テストなどを行い、システムが正しく動作するか確認します。



# 開発の最終フェーズ

## 7. デバッグ

- 発見されたバグを修正し、システムの品質を向上させます。

## 8. リリース

- システムを本番環境へデプロイし、ユーザーが利用できる状態にします。